



Admiration～敬愛と感嘆～

3月定例会の動き

- 2月
- 17日 招集告示
議会運営委員会
 - 24日 本会議（議案上程）
 - 26日 議会運営委員会
本会議（一般質問）
 - 27日 本会議（一般質問）
議会広報特別委員会

- 3月
- 2日 本会議（議案質疑）
予算特別委員会
 - 6日 常任委員会・分科会
 - 9日 常任委員会・分科会
 - 10日 常任委員会・分科会
 - 17日 予算特別委員会
議会運営委員会
本会議（表決）

記事内容

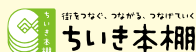
3月定例会から P 2～P 3

予算特別委員会 P 3

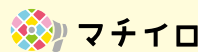
一般質問 P 4～P 6

常任委員会の動き・陳情 P 7

編集後記等 P 8



無料アプリ「SideBooks」で「おが市議会だより」をご覧ください。



無料アプリ「マチイロ」で「おが市議会だより」を配信しています。



3月定例会

3月定例会は2月24日に招集され、3月17日までの22日間の会期で開かれました。今定例会では、条例改正案や新年度予算案など32議案が市長から提案され、審議の結果、全ての議案を可決・承認しました。また、最終日に追加提案された補正予算案1件と人事案件6件をそれぞれ可決・同意・異議なしとし閉会しました。

※会議録は、「男鹿市議会会議録検索システム」からご覧いただけます。

「人口減少社会に対応した元気で心豊かに暮らす男鹿」実現に向けて 総額174億9,400万円 計画案、当初予算案」を可決し、閉会！

「次期総合 一般会計

投票環境の改善に向けた取組について



▲投票所までの送迎、移動支援

2月8日に行われた衆議院議員総選挙では、投票所への移動が困難な高齢者や障害のある方などを対象に、市が全額負担して投票所までの送迎を手配する「タクシーによる移動支援」が初めて実施されました。

本市の投票率は県平均を上回る58・07%となったほか、期日前投票率は県内13市中トップを記録するなど、市民の投票行動を後押しすることが

「ホテル木下 秋田男鹿駅前」のグランドオープンについて

オガレ向かいに建設を進めていたホテルが完成し、3月5日にグランドオープンしました。地上7階建て、161室の客室のほか、地域の方々も利用可能な2種類のサウナ付大浴場を備えた施設となっています。

総合計画と当初予算の概要について

「総合計画」と「一般会計予算」の両議案が定例会初日に提案され、本会議や各委員

「教育方針について」

後、全事業の棚卸しを早急に進める予定としている。

「人口減少社会に対応した元気で心豊かに暮らす男鹿」の実現に向けて、人口減少のスピードをできるだけ緩める

会等での審議を経た後、最終日に全会一致で可決しました。市の最上位計画となる「次期総合計画」は、昨年3月に議会が市当局に提言した「人口減少問題に関する事項」が柱に据えられています。

例年に比べて降雪量が多く、降雪後の気温上昇による路面状況の悪化も加わり、除排雪作業の出勤回数が増加したと



予算と比較し、4億3930万円、2・6%の増となっています。

これら三つの重点戦略に基づき「当初予算」が編成されており、その上で、クマ対策や物価高騰・賃金上昇への対応、シテイプロモーションの取組、公共施設等老朽化対策や脱炭素の推進などにも留意しながら関連事業費が措置されています。



ために最大の対策を講じていくこととしており、「産業力の強化」「子育て環境日本一への取組」「防災力の強化」を重点戦略に位置づけています。

予算特別委員会

健全な財政運営について

全議員で構成する予算特別委員会（吉田洋平委員長、吉田清孝副委員長）で、付託された各会計の令和7年度補正予算案や令和8年度予算案等について審査し、いずれも原案のとおり、可決・承認すべきものと決しました。

調整基金から繰り入れてもなお多額の収支不足が見込まれるなど、極めて厳しい状況となっている。一方で、産業振

興や子育て環境の整備、移住定住対策など、市の発展につながる「未来への投資」は欠かすことができない。

財政規模を身の丈に合った規模に縮減するとともに、聖域を設けず歳出の削減を進め、限られた財源で最大の政策効果を発揮できるよう、この

「非認知能力」を育む取組を今年度から進めており、この力こそグローバル社会を生き抜いていく力になると確信している。

保育園・こども園から小学校、中学校までの連続した学びを通し、「粘り強さ、思いやり・協調性、言語コミュニケーション力」の三つの

「非認知能力」を育む取組を今年度から進めており、この力こそグローバル社会を生き抜いていく力になると確信している。

これまでがないスピードで社会情勢が目まぐるしく変化

の活性化にもつながるものと考えている。

空き家の除却が進まない大きな要因ともなっている。国等に対し財政支援を働きかけていくべきではないか。

次年度以降の要望等に



▲対策急務、空き家問題！

可決した主な議案

（条例）

- 手数料条例の一部改正
◇ 地籍調査の成果等（写）の交付に係る手数料を定めるもの。
● 都市公園条例の一部改正
◇ 金川近隣公園内のプールとグラウンドを有料公園施設から除外するもの。
● 病院事業の設置等に関する条例、みなと市民病院使用料・手数料徴収条例の一部改正
◇ 診療科目を改めるとともに、病衣の貸出しを民間委託するもの。
● 市立学校設置条例の一部改正
◇ 美里小学校と船越小学校を統合するもの。
ほか6件

（令和7年度予算）

- 一般会計補正予算（第7号）の専決処分
◇ 衆議院議員総選挙等に要する経費を専決処分したもので、歳入歳出2304万7000円を追加するもの。
● 一般会計補正予算（第8号）（第9号）の専決処分
◇ 除排雪に要する経費を専決処分したもので、歳入歳出1億5573万円を追加するもの。
ほか5件

（令和8年度予算）

- 一般会計補正予算（第10号）
◇ 梨選果施設（中石・天王）の機能再編・集約に要する経費のほか、過疎地域持続的発展基金積立金や減債基金積立金などを措置したもので、歳入歳出2670万1000円を追加するもの。
ほか5件

（一般会計予算）

- ◇ 次期総合計画に掲げる「人口減少社会に対応した元気で心豊かに暮らす男鹿」の実現に向けて、三つの重点戦略に基づき予算を編成したもので、歳入歳出予算の総額を174億9400万円とするもの。
ほか8件

（その他）

- 総合計画の策定
◇ 令和8年度からの4年間を期間とする次期総合計画を定めるもの。
● 固定資産評価審査委員会委員の選任
【新任】山田 政信（船越）
【再任】天野 綾子（五里合）
【再任】齊藤 葵（船越）
● 教育委員会委員の任命
【再任】山王丸由利絵（払戸）
● 人権擁護委員の推薦
【新任】高野 桂子（船越）
【新任】寺崎 美紀（脇本）
ほか4件

健全な財政運営について
「質疑」いかにして財政の健全性を維持していくのか。
「答」「財政の健全化」と「未来への投資」とのバランス確保を図りながら行政運営に努めていくことに尽きると考えている。
特に歳出総額に占める人件費の割合が急激に拡大していることを憂慮しており、総じて歳入に比べて歳出が高止まり傾向にあり、一定額を財政

調整基金から繰り入れてもなお多額の収支不足が見込まれるなど、極めて厳しい状況となっている。一方で、産業振興や子育て環境の整備、移住定住対策など、市の発展につながる「未来への投資」は欠かすことができない。
財政規模を身の丈に合った規模に縮減するとともに、聖域を設けず歳出の削減を進め、限られた財源で最大の政策効果を発揮できるよう、この

保育園・こども園から小学校、中学校までの連続した学びを通し、「粘り強さ、思いやり・協調性、言語コミュニケーション力」の三つの「非認知能力」を育む取組を今年度から進めており、この力こそグローバル社会を生き抜いていく力になると確信している。

次年度以降の要望等に



船木 正博 議員
(市民クラブ)

「風と海の学校 あきた」の活用について

質 本施設を「教育施設」として活用するの。それとも洋上風力関連産業を呼び込む「産業政策の核」として位置づけるの。

答 訓練受講生の宿泊費支援など必要なサポートを実施しながら、船川港への洋上風力発電関連産業の集積を図る上での中核施設として、児童や生徒の教育の場として、そして地元経済に好影響をもたらす拠点として、多面的な役割が期待される本施設の運営を全面的にバックアップしていく。

質 人材を育てても、地元で仕事がないければ、人材は外に流出する。関連企業誘致、保守点検拠点誘致、港湾を活用した産業誘導をどのように進めていくの。

答 船川港の機能強化が着実に実現を働きかけるとともに、船川港や港湾未利用地の活用に向けたポートセールスに努め、洋上風力発電関連産業の集積や港湾利用

の拡大を図り、雇用の創出につなげていく。

次世代へ責任をつなぐ市政運営について

質 「人口・産業・観光・公共施設・デジタル行政・防災」などの主要分野に関し、この4年間における変化と課題をどのように捉えているの。

答 市の将来の発展に資する様々な取組が市全域で動き出している。洋上風力発電事業を契機とした企業誘致に取り組み、若者や女性が働く場など魅力ある職場の創出に努めるほか、観光ニーズの変容を踏まえ、体験型コンテンツの充実やおもてなしの心の醸成により観光消費額の拡大を目指していく。また、避難所環境の改善や備蓄物資の強化、大規模な訓練、豪雨対策など防災力の総合的な底上げに取り組んでいるほか、オンライン手続やシニア世代への支援など誰もがデジタル化の恩恵を受けられる環境整備に努めるとともに、教育施設やコミセン等の整備、廃校舎等の解体を計画的に進めている。

各分野の成果を人口減少の緩和に結びつけるべく、今後は、人口減少緩和策と適応策をバランスよく進め、幸福度向上につながる取組を市民と共に築いていく。

英語教育の充実について

質 「全ての子どもたちが英語を話せる男鹿市」を目指す。本市の英語教育の現状と課題、これまでの成果は。

答 小学校では児童の発達段階に配慮し、タブレット端末や電子黒板も活用。中学校では授業はほぼ英語で行い、対話的なコミュニケーションをより重視し、ALTとの関わりを小学校以上に多く設定し、ICT機器も有効に使用しながら授業を進めている。

国際教養大学留学生との交流の成果としては、小学校では「外国語の勉強は好きだ」と答えた子どもの割合はおおむね良好。中学校でも実践的なコミュニケーション能力の向上につながっている。

課題としては、小学校では指導体制、中学校では教師主導の一斉画一的な授業が多く見られ、子どもが主体的に学ぶ授業への転換が求められる。

質 外国人講師による「オンライン英会話」を導入してはどうか。
答 授業への導入については、既に実施している学校での状況を調査研究していく。

【その他の質問】
●プレコンセプションケアについて



太田 穰 議員
(市民クラブ)

今冬の豪雪を踏まえた、冬期における「暮らし」と「なりわい」を守る支援の在り方について

質 梨農家の冬季営農を支える観点から、市道から園地に入る枝線除雪の在り方をどのように整理するのか。また、高齢化が進む中で省力化機械導入支援や、気象条件の変動を契機に多目的ネット整備を含めた通年での産地強化の方向性は。

答 梨は本市を代表する農産物であり、冬の剪定は重要な作業である。枝線除雪は計画路線ではないが、生活道路に支障のない範囲で柔軟に対応している。省力化機械の導入は、県が導入に対する助成事業を準備しており、市では多目的防災網の設備購入に対する助成を来年度予算に計上している。今後も産地の維持拡大に努める。

質 今冬はバス停に雪が残り、高齢者や学生が安全に待つことが難しい状況が見られた。路線バスは市民生活を支える重要な公共交通であり、バス停の安全確保は

除雪作業の問題であると同時に、公共交通政策としての位置づけが必要である。今後、バス停の除排雪を政策としてどのように位置づけていくの。

答 年明けから降雪や降雨などにより道路状況が悪化し、一部路線を運休するなど運行にも影響が生じた。運行を委託している事業者と連携し、バス路線の優先除雪により運行の安全を確保しているが、バス停の除排雪については、これまで恒常的な体制は整えておらず、十分な対応ができなかった。市内全域のバス停の数や限られた人員・予算を考えると除雪対応は困難であるため、現行の運用を基本に、現実的な範囲での体制整備を検討していく。

質 畜産は冬期も継続する営みであり、飼料価格高騰や燃料費増加など厳しい経営環境が続いている。国・県・市の支援策をどのように重ね合わせて持続可能な経営環境を構築していくの。

答 国は、セーフティネットを、県・市は、生産基盤の強化や物価高騰などを中心に、それぞれの役割分担と連携の下、生産者をサポートしており、相当程度充実した支援内容であると認識している。生産者が安心して営農を継続できるように取り組んでいく。



吉田 洋平 議員
(政和会)

将来人口推計を踏まえた長期的視点による行政運営と公共施設の在り方について

質 将来人口推計を前提とした行政規模、公共施設総量の再設計が必要ではないか。

答 行財政改革においては、遊休施設の有効活用、小・中学校の統廃合、消防やごみ処理等の広域化による中長期的なコスト削減に取り組んでいる。公共施設総量についても、男鹿市公共施設等総合管理計画を基に縮減を進めているが、建築単価や解体費等の高騰により、計画どおりの推進は予断を許さないものと考えている。「未来への投資」と「財政の健全化」の双方を念頭に置き、限られた財源で最大限の政策効果を発揮できるように汗をかいていく。

米の価格変動リスクを踏まえた経営の安定化と市の備えについて

質 米価の価格変動リスクに対する市の認識と、経営安定に向けた支援策等の検討状況は。

答 価格下振れによる経営への影響としては、一過性の経営悪化にとどまらず、地域の担い手の離農や耕作放棄地の増加につながることも懸念される。既存のセーフティネットに加え、県と市、融資機関で資金繰り対策を念頭に置きながら、状況の変化に迅速に対応していく。リスク分散のため、供給先の多角化・複線化や市場動向の情報提供、中長期的なコスト削減に向けた法人化などを通じて、価格の下落局面でも耐え得る経営体質の強化を促進していく。

春季における計画的なツキノワグマ捕獲方針について

質 春季捕獲の具体的な取組内容および計画の有無は。
答 出没箇所や移動経路が想定さるる区域において、計画的かつ積極的に春季捕獲を実施していく。まずは、目撃情報の多かつた脇本第一小学校付近など4か所程度での箱わな設置と冬眠穴の探索を含めた巡回を計画しており、積極的に個体の排除を図っていく。関係機関と連携し、市民の安全・安心確保のためクマ対策に万全を期していく。

【その他の質問】
●若年層の婚姻率向上に向けた結婚支援策の新たな方向性について



進藤 優子 議員
(公明党)

手話に関する施策の推進について

質 昨年6月の「手話推進法」の成立を受けて、市の現状と課題、今後の対応は。

答 「男鹿市障がい者計画」に基づき様々な施策を推進しているが、手話で会話ができる人をどう増やしていくかが課題の一つ。

手話が必要とする方の日常生活の安心のため、手話の普及啓発や意思疎通支援に努めていくほか、災害時の安全確保に向けた施策を推進していく。

質 「全国手話言語市区長会」へ入会すべきでは。

答 県内では6市が入会している。その活動状況等について情報収集し、検討していく。

質 本市においても「手話言語条例」を制定すべきでは。

答 手話が必要とする方やその関係者の意思を尊重しながら、手話の普及と手話が必要とする方への支援を一層推進できるような本市の実情に沿った実効性の高い条例の制定を目指し、鋭意取り組



安田健次郎 議員 (日本共産党)

過疎地域の施策充実を！

人口減少が著しい過疎地域では、日常生活や将来に対する不安が高まっている。「病気や災害など不測の事態が心配だ」「身近で気軽に買い物をしたい」「たまには温泉にでも入りたい」若美地区の各朋友館でもっと高齢者の集まりなどを実施してほしい」等々の声が寄せられている。現在の取組も含めた市の見解は。

高齢化の進行や商店の減少で日常の買い物に不便を感じている方がいることは認識している。宅配サービスや移動販売、介護保険の訪問ヘルパーによる買い物支援も実施されているが、引き続き路線バス以外の買い物支援の仕組みを検討していく。

コミュニティ活動の推進については、コミュニティ活動推進補助金と地域振興基金活用事業補助金の二段構えで地域の主体的な取組を応援しており、集落支援員と町内会等が一体となった独自の取組を行っている。集会施設の改修助

成や備品の購入制度の利用サポートにも力を入れ、自主的な活動が多くの町内会で展開されるようサポートしていく。

市内道路の整備促進を！

近年損傷が著しく、事故を含めて市民の不満も多くなっている。排水路や支障木、通学路等に対する懸念や不安のほか、五里合地区のガードレール設置の必要性について、市の対応は。

舗装修繕は、国の交付金等を活用し計画的に実施しているほか、令和5年度から道路維持費を拡充し、舗装修繕を集中的に実施した結果、道路事故賠償件数も令和4年度から漸減し、7年度はここまでゼロとなっている。今年度からは12月補正予算に債務負担行為を設定することで、春先早期に補修することが可能となる。また、来年度からは一部の維持管理を建設業者へ包括的に委託する。支障木が私有地にある場合、土地所有者の協力を得ながら解消に努めているが、緊急を要する場合

は道路管理者の判断で伐採等の対応をしている。通学路は、毎年合同点検を実施し安全確保に努めており、五里合地区のガードレール整備は、地元とも十分協議した上で県が令和5年度に整備しており、交通の安全性は確保されている。

委員会・分科会の動き

各常任委員会・分科会は、付託議案等と所管の予算案を審査しました。質疑のあった主な事項は、次のとおりです。

総務

手数料条例の一部を改正する条例について

質疑 地籍調査の成果等(写)の交付に関する考え方とは。

答 手数料を定める写しの交付は、国土調査法に基づく地籍調査の成果等の写しが対象で、一般に閲覧が可能なものとして市が調査した当時の地籍図等が該当する。

一方、成果に至るまでの調査票等の基礎資料については、個人情報保護法に基づき、本人もしくは委任者のみへ交付する。

シティプロモーション推進事業について

説明 男鹿の価値や魅力を明確化し、情報を発信することで、交流人口や関係人口の交流を図るほか、市民が誇りを持って地域を語るまちづくり

を推進するための事業である。質疑 首都圏での情報発信の概要は。

答 とりわけ子育て世帯にとって有益な情報を戦略的に発信することで、移住者や観光客のほか、交流人口や関係人口の増加を目的としている。子ども向けイベントが頻繁に開催される東京ドームサイトのサイネージにプロモーション動画を配信するほか、最寄り駅を通る路線の車両にPRポスターを掲示することで、男鹿の認知度向上を図る。

教育厚生

介護保険の見直しについて

質疑 当初予算は総じて減額されているが、今後、介護等に要する予算は減少傾向にあるのか。ピークはまだ先になるのか。

答 要支援・要介護認定者数は、一旦は減る見込みだが、何も対処をしなければ認定者数のピークも2040年までに再び上がる。自立支援の推進等でそれに逆らっていくか、



田井博之 議員 (新風会)

県を含めた広域連携による婚活支援とメタバース導入の可能性について

県を含めた広域連携による婚活支援について、今後どのように関わっていく考えなのか。

これまで身だしなみ講座等のイベント型の取組を実施してきたが、男女のバランスや参加者の年齢層にばらつきが生じるなど、マッチング効果が十分に発揮されなかった点が課題となっている。こうした課題に対応するため、近隣市町村とも協力し合い、参加対象エリアを拡大することで、より多くの出会いが創出され、結婚の可能性が広がるものと考え、広域的に参加できるイベントの開催を次期総合計画にも盛り込んだところである。

広域婚活を進める上での新たな婚活支援として、メタバース等のデジタル技術の活用や実証的導入に取り組んでいく考えはあるか。

メタバース婚活は、インターネット上に構築された3次元の仮想空間で交流する形態であるが、県内では湯沢市が令和5年度に実施したものの、参加者の確保が思いどおりならず、期待したマッチング効果も得られず、たった1年で事業を取りやめたとなっている。

結婚活動において、インターネットを活用した情報収集やSNSでの連絡の効率化は補助的な役割を果たすが、基本的には人と人が直接会う機会の創出が大切であると考えており、メタバース婚活を実施する考えはない。

主権者教育の充実と若者の市政参画意識の醸成について

若者が市政や地域課題を「自分ごと」として捉え、主体的に関わる意識を育てる取組として、現在どのような成果と課題が挙げられるのか。

将来の有権者を育てるという視点だけでなく、早い段階から市政や地域づくりに関わる当事者としての意識を醸成していくことが重要であり、今後は、ふるさとキャリア教育で生まれた子どもたちの提案について事業化を検討するなど、「自分の意見・行動が地域を動かす」という実感を持つ環境づくりに努めていく。

都市公園条例の一部改正について

産業建設

質疑 金川グラウンドの「砂

ぼこりの飛散」や「水はけの悪さ」については、以前からその対策を求める住民要望がなされてきたが、今後これらに対応する考えはあるか。

近隣町内会やスポーツ協会との意見交換で出された要望等を踏まえ、金川近隣公園改修事業」として当初予算に計上したところであり、砕石敷の広場へと整備することで砂ぼこりや水たまりが解消されるほか、イベント広場や駐車場としても活用でき、公園としての機能性かつ利便性の向上を図るものである。

梨選果施設再編・集約事業について

天王選果場を廃止して中石選果場へ集約することとなるが、潟上市も応分の負担をするべきではないか。

男鹿と潟上の農家が使用するため、JAは県と両市へ嵩上げを要望していたが、潟上市からは男鹿の施設であることなどを理由に、嵩上げについての理解が得られなかったと伺っている。これを受け、本市としては、市町村負担分の最大値である4・15%のうち、選果場を使用する男鹿市分出荷量の割合(8割)となる3・32%を負担する。

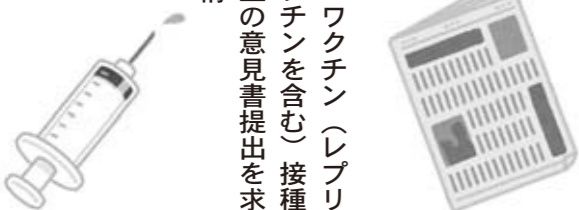
陳情

「最低賃金の改正と中小企業・小規模事業所支援の拡充を国に求める意見書」の採択を求める陳情



東京都新宿区において顕在化した事例を受けて、政党機関紙の庁舎内勧誘行為に関する早期の実態調査と再発防止を求める陳情

mRNAワクチン(レプリコンワクチンを含む)接種事業中止の意見書提出を求める陳情



◇選挙運動一部自粛のお知らせ◇

(男鹿市議会議員一般選挙：令和8年4月5日告示・4月12日投開票)

男鹿市議会では、現職議員で構成する全6会派の申し合わせにより、次の事項を確認しました。

- ①選挙カーのほかに「随行車両は1台まで」とする。
- ②選挙カーによる「運動時間は極力午後7時まで」とする。



4月臨時会 6月定例会の予定

4月	6月
23日 招集告示(4月臨時会)	18日 本会議(議案質疑) 予算特別委員会
30日 本会議(正副議長選挙等)	19日 予算特別委員会
4日 招集告示(6月定例会)	22日 常任委員会・分科会
議会運営委員会	23日 常任委員会・分科会
11日 本会議(議案上程)	30日 予算特別委員会
15日 本会議(一般質問)	議会運営委員会
16日 本会議(一般質問)	本会議(表決)
17日 本会議(一般質問)	

👏 4年間の任期満了 👏 「議員と市長」記念撮影

議員クラブでは、任期満了の議会において市長との記念写真を撮影することとしています。定例会最終日には、市長から議員各位に対し、「市民の代表として重責を全うされ、市政発展のために多大な尽力を賜った」として、謝意が表されました。



📖 議会広報特別委員会 📖

今回の「おが市議会だより91号」は、改選後の「6月1日発行」となります。
引き続き、ご愛読のほどよろしくお願いいたします。



前列左から、小松議長、進藤委員長、古仲副委員長
後列左から、小野委員、安田委員、田井委員、吉田(洋)委員

▶ 早いもので今任期の最終号となりました。「議会だよりを読めば議会が分かる」を目標に、市民の皆様の声や先進地視察を踏まえながら、議会と市民の皆様をつなぐ架け橋の紙面となるよう、広報委員一同、編集に努めてきました。

ご愛読いただきました全ての皆様に感謝を申し上げ、後記といたします。

(副委員長 古仲 清尚)

編集後記



▶ 議会の動きを身近に感じ、目に留めていただけるよう、表紙と裏表紙をカラー刷りに変更し、アプリを活用した情報発信を充実させるなど、市民の皆様にも親しまれる紙面づくりを心がけてきました。

引き続き、議会の動きにご注目いただければ幸いです。2年間、本当にありがとうございました。

(委員長 進藤 優子)